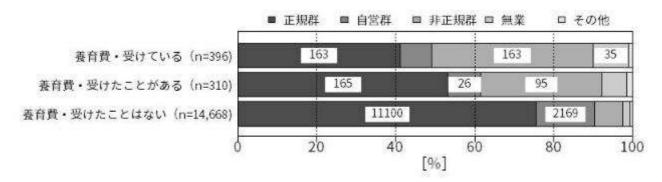
## 養育費の受給別に見た、就労状況(保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 就労状況)

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

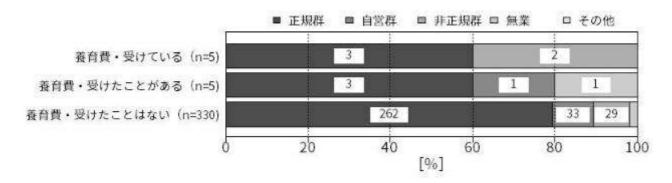


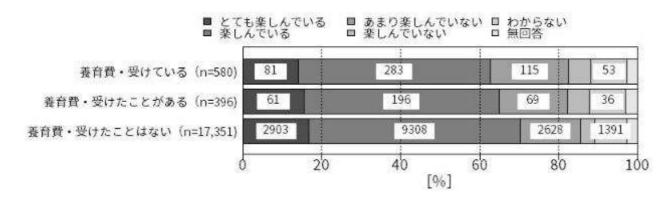
図 155. 養育費の受給別に見た、就労状況

養育費を受けている・受けたことがある世帯の回答者は5人しかおらず、養育費の受給別で就労状況について述べることはできない。

### 養育費の受給別に見た、心の状態(生活を楽しんでいるか)

(保護者票 問 30(3)9 × 保護者票 問 25(1))

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

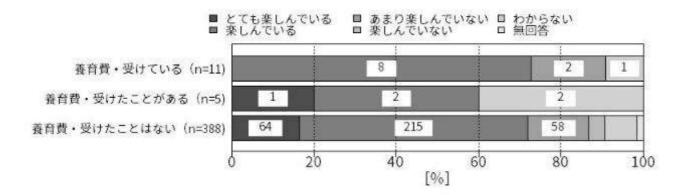


図 156. 養育費の受給別に見た、心の状態(生活を楽しんでいるか)

養育費を受けている世帯・受けたことがある世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べること はできない。

養育費を受けている世帯では、「楽しんでいない」が該当なし、養育費を受けたことはない世帯では 3.9%であった。

## 養育費の受給別に見た、心の状態(将来への希望)

(保護者票 問 30(3)⑨ × 保護者票 問 25(2))

## <大阪市 24 区>

- 希望が持てる ■ 希望が持てるときもあれば、持てないときもある □ 無回答 ■ 希望が持てない
- 養育費・受けている (n=580) 115 350 61 養育費・受けたことがある (n=396) 59 37 219 9688 養育費・受けたことはない (n=17,351) 20 40 60 80 100 [%]

## <大阪市此花区>

■ 希望が持てる ■ 希望が持てるときもあれば、持てないときもある □ 無回答 ■ 希望が持てない

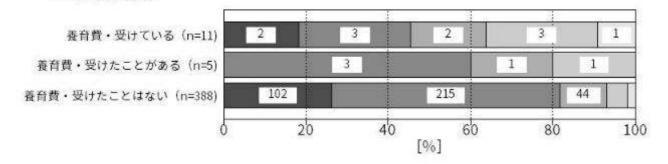


図 157. 養育費の受給別に見た、心の状態(将来への希望)

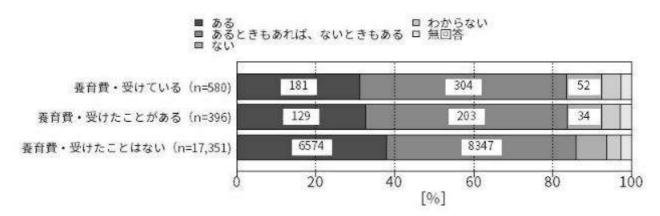
養育費を受けている世帯・受けたことがある世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べること はできない。

養育費を受けている世帯では、「希望が持てない」が 18.2%、養育費を受けたことはない世帯では 11.3%であった。

## 養育費の受給別に見た、心の状態(ストレス発散できるもの)

(保護者票 問 30(3) 9 × 保護者票 問 25(3))

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

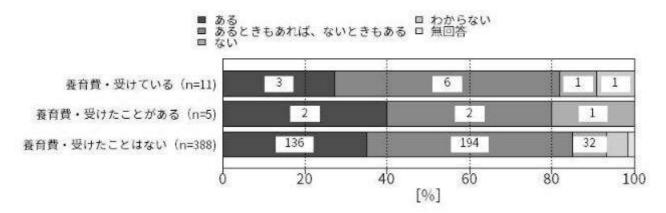


図 158. 養育費の受給別に見た、心の状態 (ストレス発散できるもの)

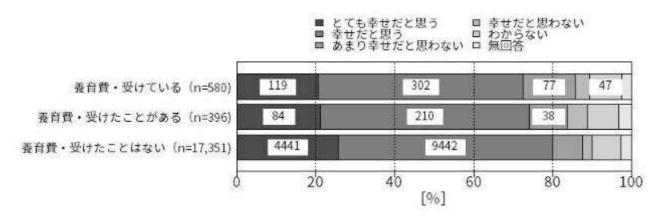
養育費を受けている世帯・受けたことがある世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べること はできない。

養育費を受けている世帯では、「ない」が 9.1%、養育費を受けたことはない世帯では 8.2%であった。

### 養育費の受給別に見た、心の状態(幸せだと思うか)

(保護者票 問 30(3)9) × 保護者票 問 25(4))

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

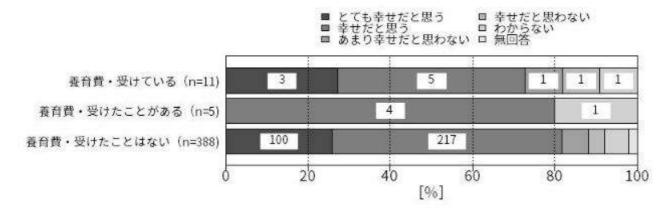


図 159. 養育費の受給別に見た、心の状態(幸せだと思うか)

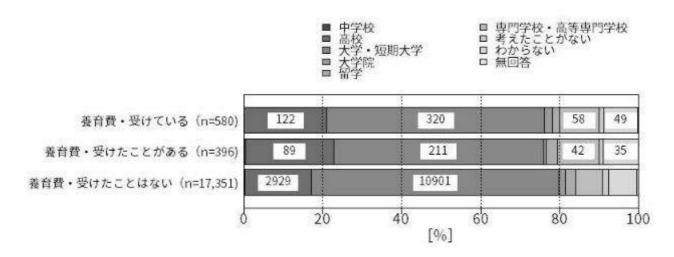
養育費を受けている世帯・受けたことがある世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べること はできない。

養育費を受けている世帯では、「幸せだと思わない」が 9.1%、養育費を受けたことはない世帯では 3.9%であった。

### 養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先

(保護者票 問 30(3)9 × 保護者票 問 15)

### <大阪市 24 区>



### <大阪市此花区>

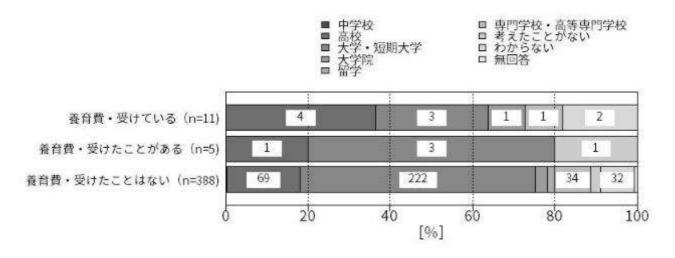
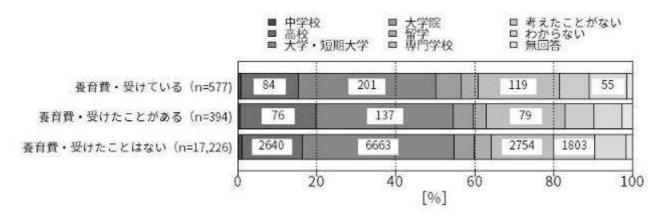


図 160. 養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先

養育費を受けている世帯・受けたことがある世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べること はできない。

養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が 27.3%、養育費を受けたことはない世帯では 57.2%であった。

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

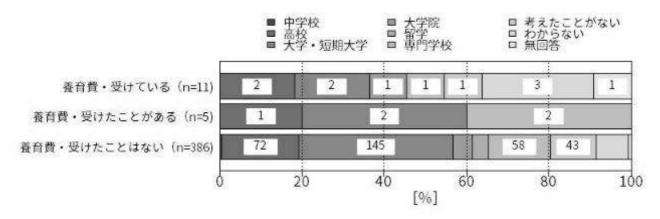


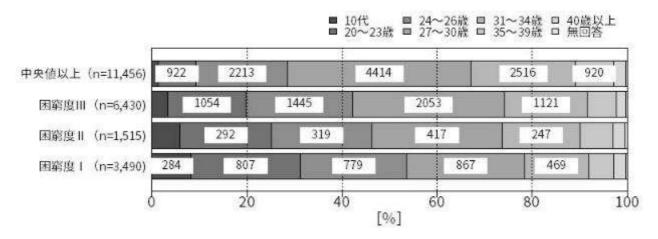
図 161. 養育費の受給別に見た、希望する進学先

養育費を受けている世帯・受けたことがある世帯は人数が少ないため、比較して傾向を述べること はできない。

養育費を受けている世帯では、「大学・短期大学」が 18.2%、養育費を受けたことはない世帯では 37.6%であった。

### 困窮度別に見た、初めて親となった年齢(保護者票 問22)

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

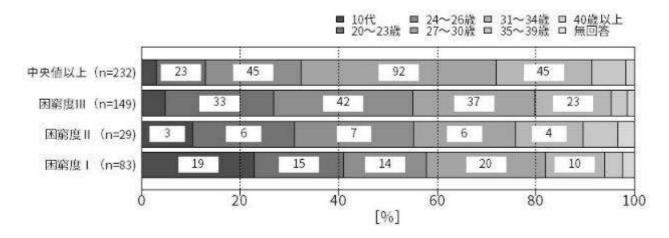


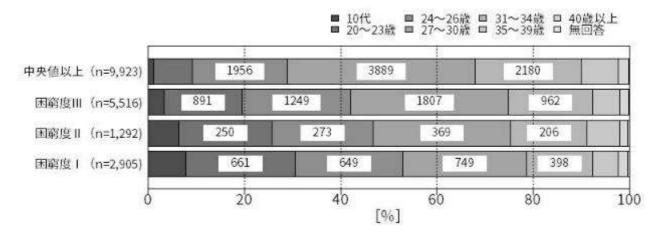
図 162. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度 I 群で 10 代で初めて親となったと答えた割合は 22.9%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢(保護者票 問22)

※母親が回答者の場合に限定

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

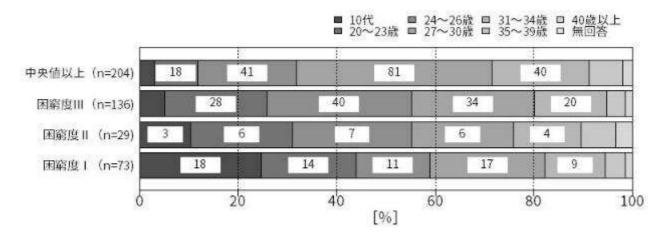
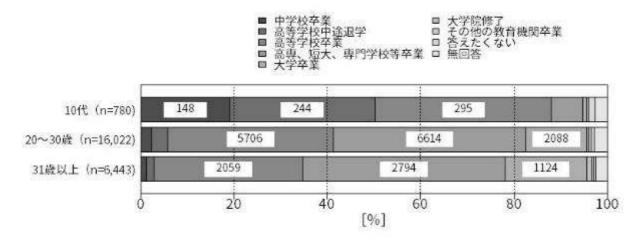


図 163. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度 I 群で 10 代で初めて親となったと答えた割合は 24.7%であった。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴(保護者票 問 22 × 保護者票 問 8) ※母親が回答者の場合に限定

### <大阪市 24 区>



### <大阪市此花区>

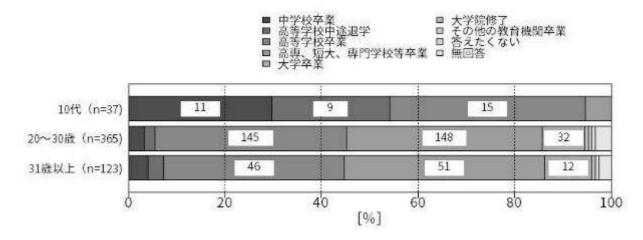


図 164. 初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴 ※母親が回答者の場合に限定

「初めて親となった年齢」を基準に、10代で初めて親となった10代群、平均出産年齢以下の年齢で初めて親となった平均以下群(20~30歳)、平均出産年齢以上の年齢で初めて親となった平均以上群(31歳以上)を設けた(平均出産年齢については下記URLを参照)。

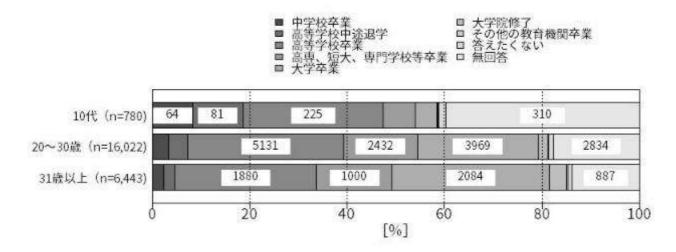
母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に母親自身の最終学歴を見ると、10 代群において「中学校卒業」または「高等学校中途退学」と回答した割合が高かった。

#### 平均出産年齢:

http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2013/25webhonpen/html/b1 s1-1.html

初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴(保護者票 問 22 × 保護者票 問 8) ※母親が回答者の場合に限定

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

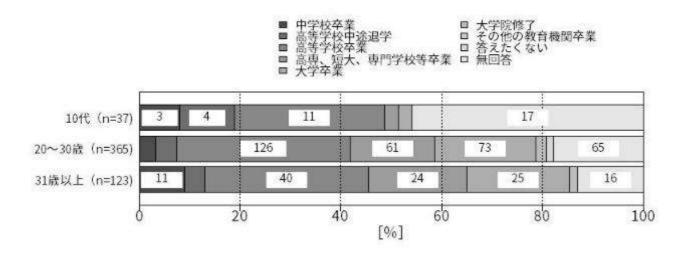
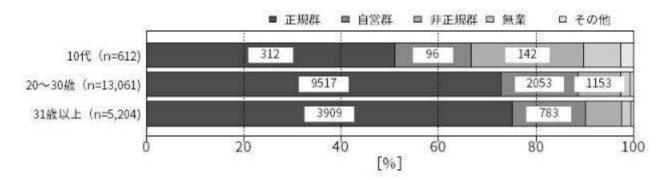


図 165. 初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に父親の最終学歴を見ると、10代群において「中学校卒業」または「高等学校中途退学」と回答した割合が高かった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況(保護者票 問22 × 保護者票 就労状況) ※母親が回答者の場合に限定

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

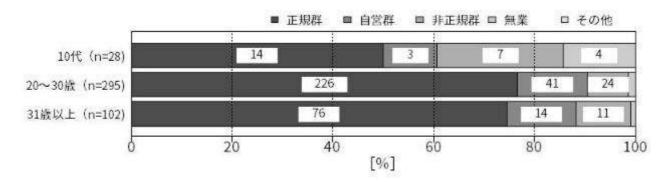
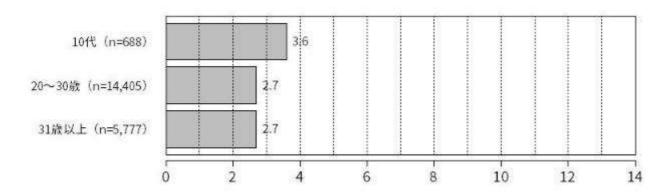


図 166. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況 ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に就労状況を見ると、10代群は他の群と 比較して「正規群」の割合が低く、「非正規群」の割合が高かった。 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること (保護者票 問 22 × 保護者票 問 26) ※母親が回答者の場合に限定

## <大阪市 24 区>



### <大阪市此花区>

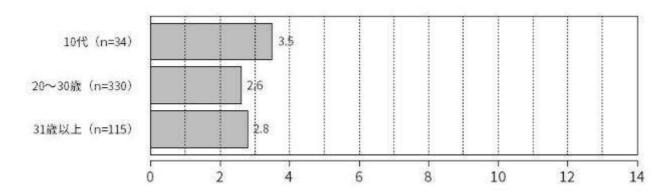
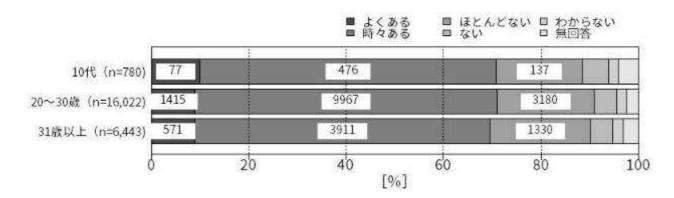


図 167. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に自分の体や気持ちで気になることの該 当数を見ると、10代群は、他の群と比較して、自分の体や気持ちで気になると回答したことの数が多 かった。 初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと (保護者票 問22 × 保護者票 問27) ※母親が回答者の場合に限定

## <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

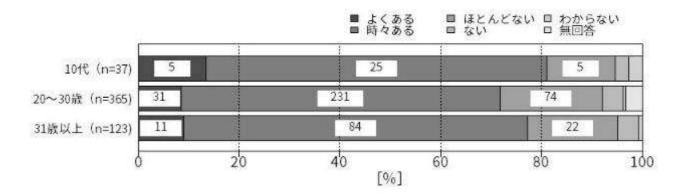
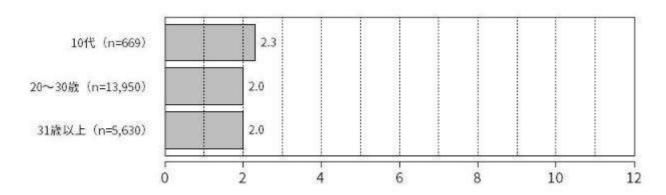


図 168. 初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、10代群は、他の群と比較して、「よくある」と回答した割合がやや高かった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること (保護者票 問 22 × 子ども票 問 24) ※母親が回答者の場合に限定

## <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

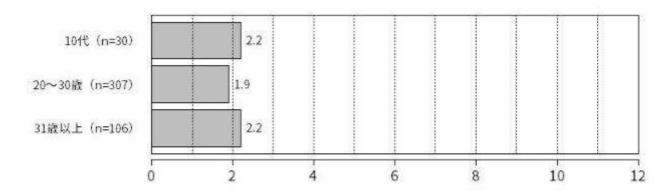
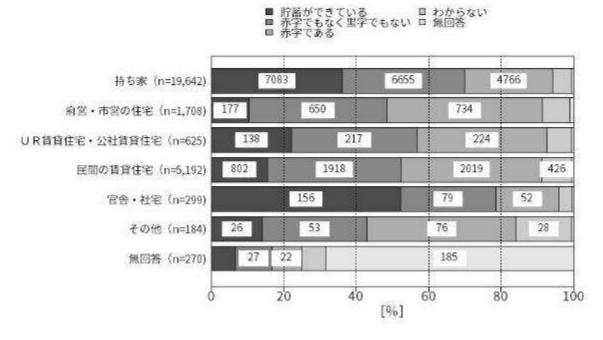


図 169. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること ※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に子どもが自分の体や気持ちで気になる ことの該当数を見ると、群間で大きな差は見られなかった。

### <大阪市 24 区>



### <大阪市此花区>

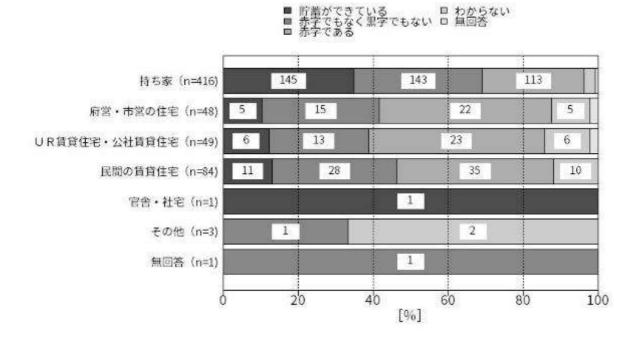
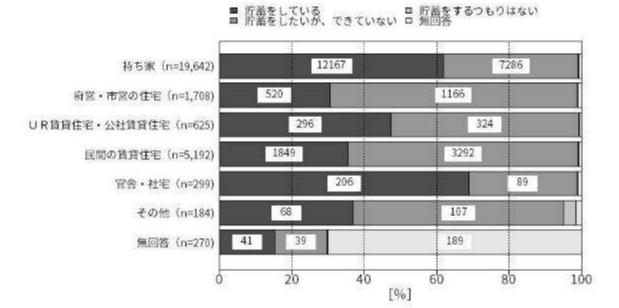


図 170. 住居別に見た、家計状況

「赤字であった」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では 45.8%、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では 46.9%、民間の賃貸住宅に住む人では 41.7%であった。また、持ち家に住む人で「赤字であった」と回答した割合は 27.2%であった。

### <大阪市 24 区>



### <大阪市此花区>

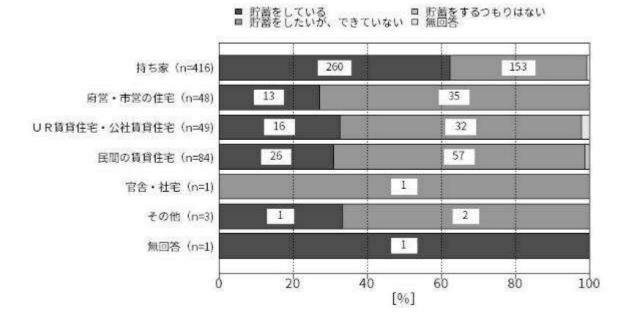


図 171. 住居別に見た、子どものための貯蓄

「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では72.9%、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では65.3%、民間の賃貸住宅に住む人では67.9%であった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は36.8%であった。

#### <家庭状況に関する考察>

社会保障給付の利用状況について、困窮度 I 群における各制度の利用率を挙げると、児童手当92.8% (大阪市93.2%)、就学援助費59.0% (大阪市64.4%)、児童扶養手当50.6% (大阪市44.9%)、生活保護制度13.3% (大阪市9.6%)である。生活保護を受けている世帯について、受けたことがない世帯と比較すると次の違いが見られた。生活を「楽しんでいない」、将来に対して「希望が持てない」、ストレスを発散できるものが「ない」、「相談できる相手がいない」、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「よくある」、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べることが「まったくない」、おうちの大人の人に宿題(勉強)をみてもらうことが「まったくない」、おうちの大人の人と変んだり、体を動かしたりすることが「まったくない」、授業時間以外に勉強を「まったくしない」、「学習塾等、習い事はしていない」、学校の勉強を「ほとんどわからない」などの回答が高い傾向が見られた。子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)の平均点は生活保護世帯では18.5点(大阪市17.7点)、生活保護を受けたことがない世帯では18.6点(大阪市18.5点)であった。生活保護世帯では、希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した子どもが14.3%に対し、生活保護を受けたことがない世帯では39.1%であった。

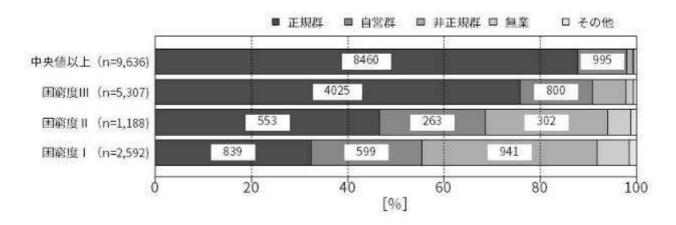
母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、10代で初めて親となったと答えた割合が高くなっている。10代群において「中学校卒業」または「高等学校中途退学」と回答した割合が高くなっている。就労状況を見ると、10代群は他の群と比較して「正規群」の割合が低くなっている(大阪市の傾向とは同じ)。また、他の群と比較して、自分の体や気持ちで気になると回答したことの数が多い。不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「よくある」と回答した割合が高いのは、大阪市の傾向と同じである。

「赤字である」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅(45.8%)、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅(46.9%)、民間の賃貸住宅(41.7%)で高かった。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は27.2%であった。「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅(72.9%)、UR賃貸住宅・公社賃貸住宅(65.3%)、民間の賃貸住宅(67.9%)で高かった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は36.8%であった。

### 3-2. 雇用

### 困窮度別に見た、就労状況(保護者票 就労状況)

### <大阪市 24 区>



#### <大阪市此花区>

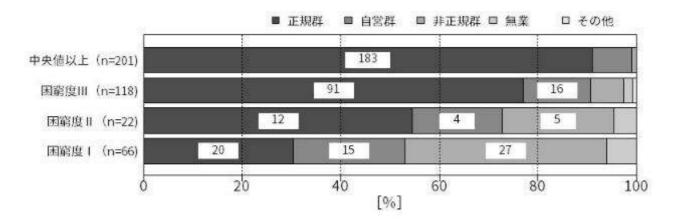


図 172. 困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」・「非正規群」の割合が高くなっている。困窮度 I 群においては他と比べて「非正規群」・「無業」の割合がやや高く、それぞれ 40.9%、6.1%となっている。

※就労形態は以下のように分類している。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれれば「正規群」(問9選択肢1)、

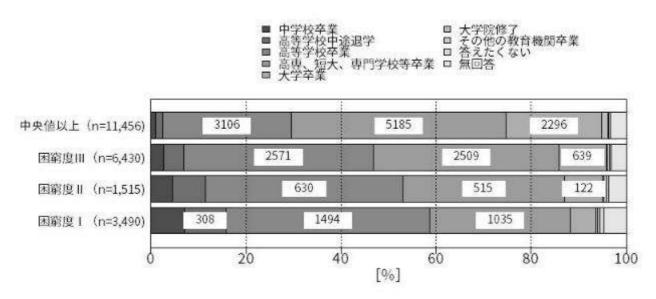
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれれば「自営群」(問9選択肢4)、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれれば「非正規群」(問9選択肢2、3)、

上記以外で、誰も働いていなければ(問9選択肢6、7)無業。

上記以外がその他 となる。

### <大阪市 24 区>



### <大阪市此花区>

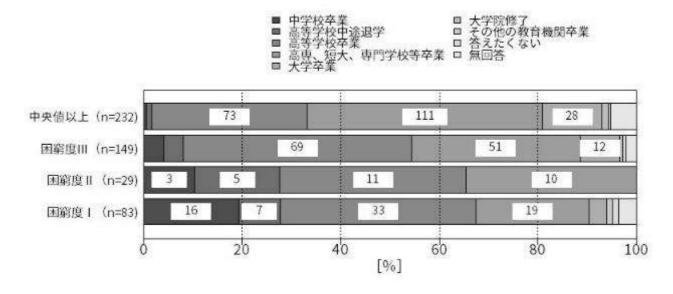
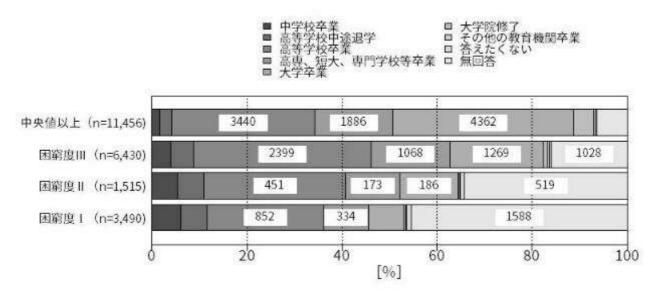


図 173. 困窮度別に見た、母親の最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度 I 群の「中学校卒業」は 19.3%、「高校学校中途退学」は 8.4%、「高等学校卒業」の割合が 39.8%であった。

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

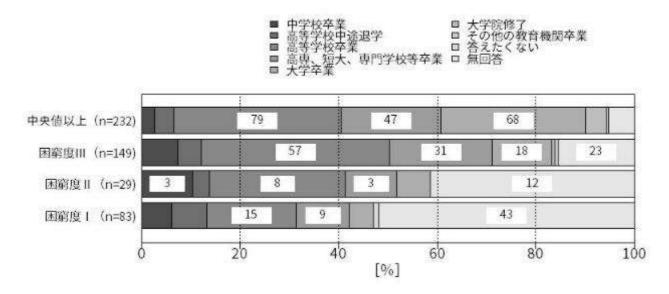
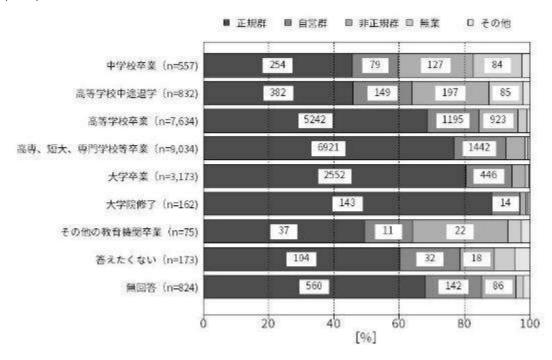


図 174. 困窮度別に見た、父親の最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると、困窮度 I 群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ 6.0%、7.2%であった。また、困窮度 I 群では無回答の割合も高い(51.8%)。

## 母親の最終学歴別に見た、就労状況(保護者票 問8× 保護者票 就労状況)

### <大阪市 24 区>



### <大阪市此花区>

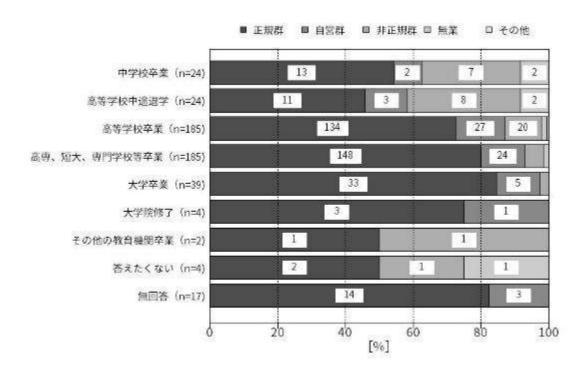
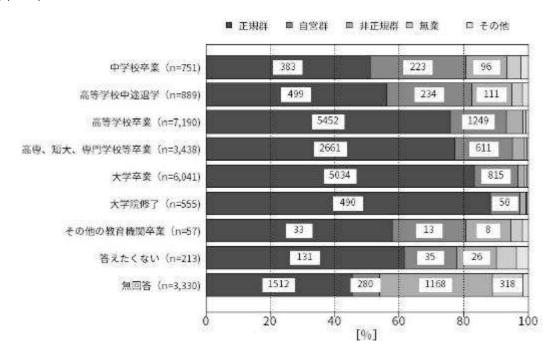


図 175. 母親の最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる。

## 父親の最終学歴別に見た、就労状況(保護者票 問8× 保護者票 就労状況)

### <大阪市 24 区>



### <大阪市此花区>

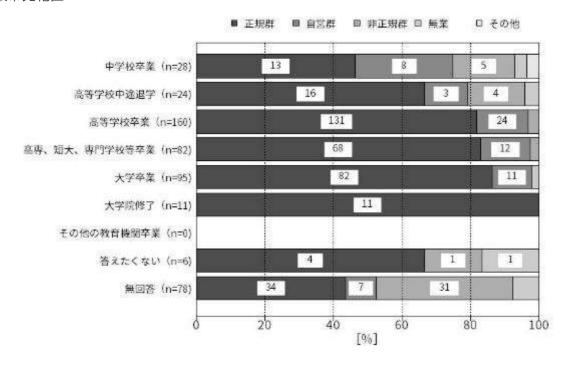
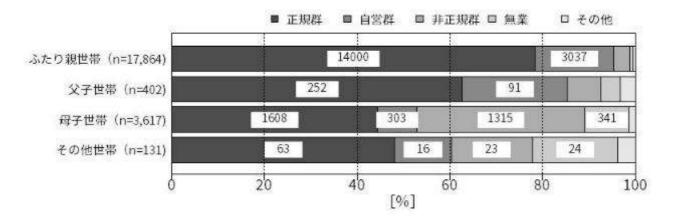


図 176. 父親の最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「父親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の 割合が高くなる。

## 世帯構成別に見た、就労状況(保護者票 就労状況)

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

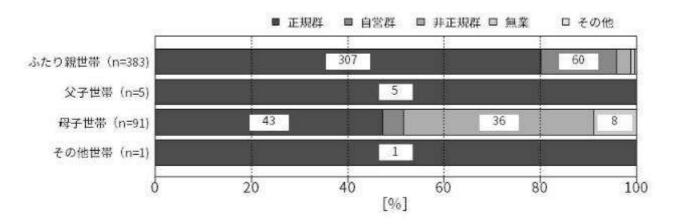
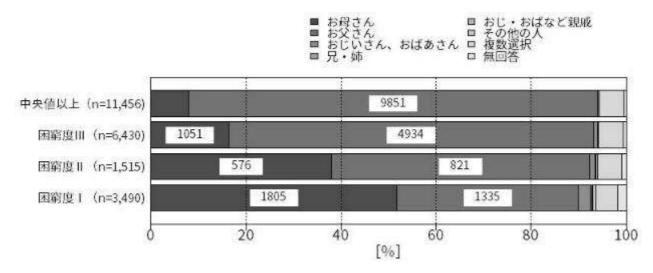


図 177. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が80.2%であったが、「母子世帯」では47.3%であった。「非正規群」は、「母子世帯」では39.6%となっている。

## 困窮度別に見た、生計の支えとなる人(保護者票 問30(2))

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

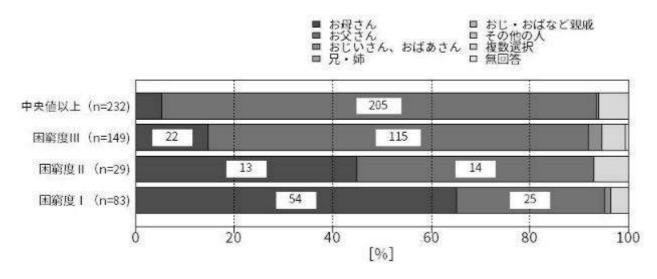
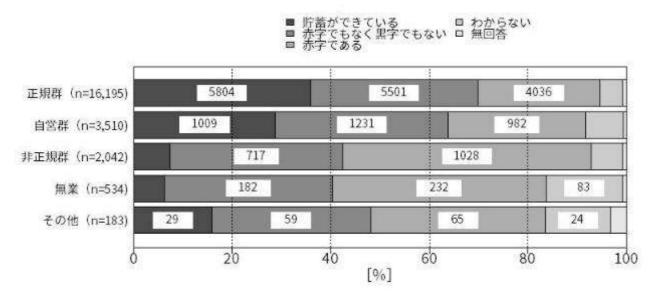


図 178. 困窮度別に見た、生計の支えとなる人

困窮度別に生計の支えとなる人を見ると、中央値以上群では「お父さん」という回答が 88.4%であった。困窮度が高まるにつれ、「お母さん」という回答が多くなっていた。困窮度 II 群では「お母さん」という回答は 44.8%、困窮度 I 群では 65.1%であった。

### <大阪市 24 区>



### <大阪市此花区>

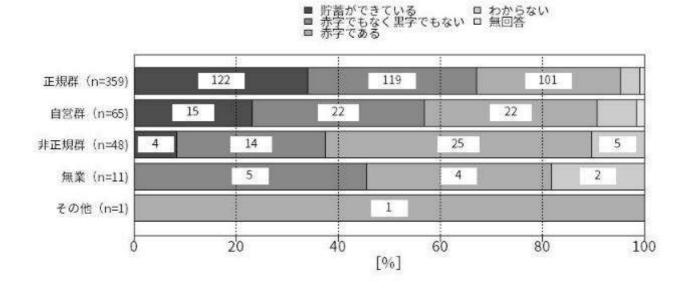


図 179. 就労状況別に見た、家計状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」・「自営群」では貯蓄ができている割合がそれぞれ、 34.0%、23.1%であった。「非正規群」では「赤字である」と回答した人が 52.1%であった。

#### <雇用に関する考察>

本調査では、雇用形態が所得階層の分布に反映されていることが判明した。所得階層が高い層ほど、正規雇用である傾向がみられたためである。中央値以上の群では、正規雇用が 91.0%であったのに対して、困窮度 I の群では半分以下の 30.3%にとどまっている。非正規雇用の割合は中央値以上の群では 1.0%であったにも関わらず、困窮度 I の群では 40.9%に達する。ちなみに、正規雇用であるにもかかわらず困窮度 I の群に属するという点は、ワーキングプアなどの問題を含んでいる可能性がある。

困窮度が高い群ほど、学歴が低い傾向にあることも示された。中学卒業、あるいは高校中退である割合は、困窮度 I の群に属する母親の場合 19.3%と 8.4%であった。中央値以上の群では 0.4%と 1.3%であった。父親も同様の傾向が見られた。中学卒業、あるいは高校中退である割合は、困窮度 I 群ではそれぞれ 6.0%、7.2%であるのに対して、中央値以上群では 2.6%と 3.9%とで約半分であった。さらに、学歴が高い群ほど正規雇用の割合は高く、大学卒では正規雇用の割合は 80%を超えている。

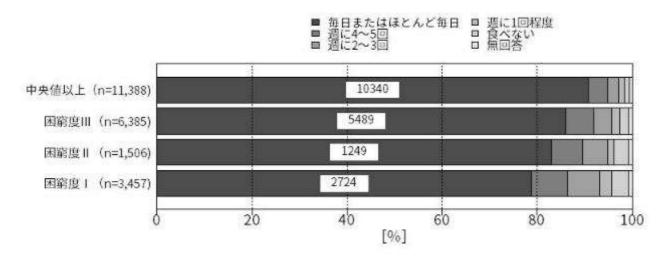
世帯構成と就労状況の関係を見ると、母子世帯における非正規雇用の高さが目立つこととなった。ふたり親世帯では3.4%であったのに対して、母子世帯では39.6%の世帯が非正規雇用であった。困窮度 I の群では、主たる生計維持者が母親である割合が65.1%となっている。

家計の状況にも明確な差が生じていた。正規雇用の34.0%は、貯蓄ができていると回答し、生活が安定している傾向が見られたのに対し、非正規雇用では貯蓄ができている世帯は8.3%にとどまり52.1%が赤字であると回答している。

### 3-3. 健康

### 困窮度別に見た、朝食の頻度(子ども票 問5(1))

## <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

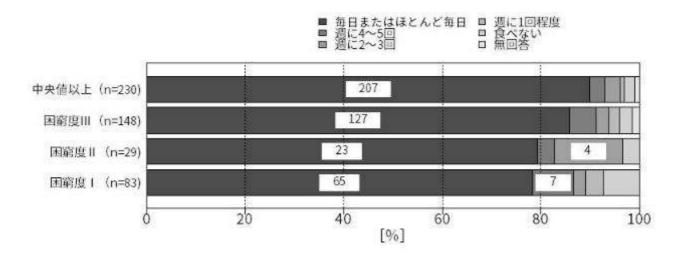
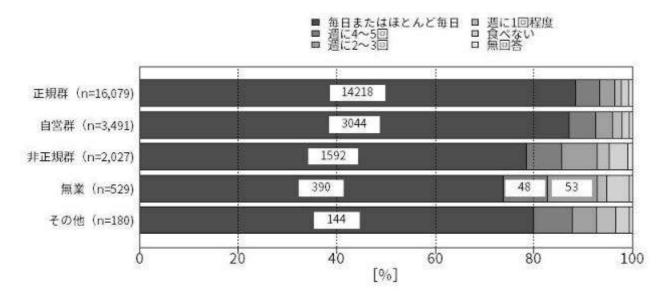


図 180. 困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにしたがって、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる頻度が減る傾向が見られた。困窮度 I 群では、78.3%が「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べると回答した。

## 就労状況別に見た、朝食の頻度(子ども票 問5(1))

### <大阪市 24 区>



### <大阪市此花区>

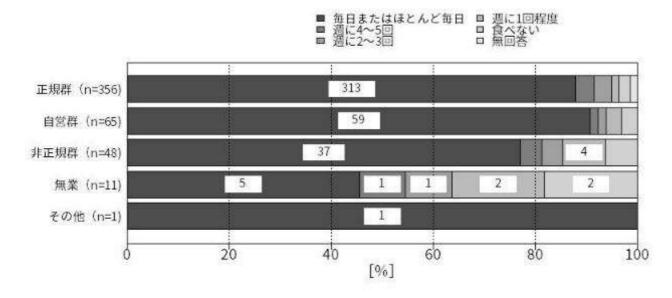
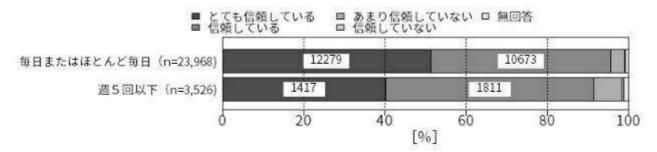


図 181. 就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「正規群」で87.9%、「自営群」で90.8%、「非正規群」で77.1%、「無業」で45.5%であった。

朝食の頻度別に見た、 保護者と子どもの関わり (子どもへの信頼度) (子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(1))

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

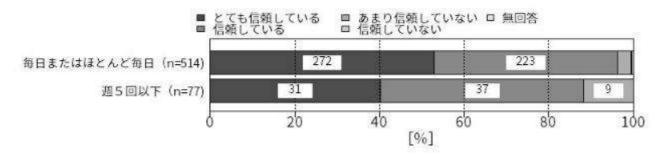


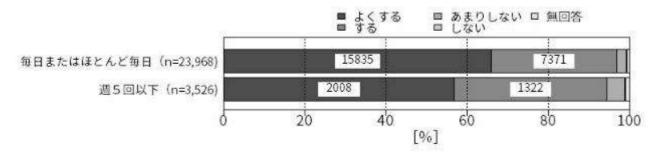
図 182. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもへの信頼度)

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり(子どもへの信頼度)を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が 52.9%であったのに対し、「週 5 回以下」では、「とても信頼している」と回答した人は 40.3%であった。

## 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり(子どもと会話)

(子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(2))

## <大阪市 24 区>



### <大阪市此花区>

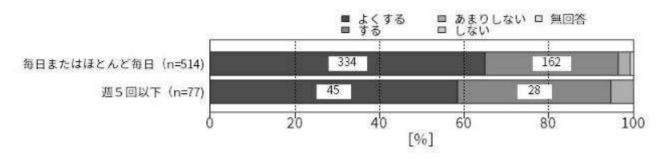
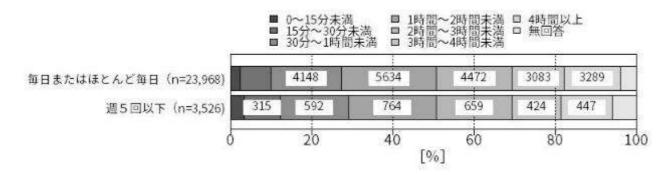


図 183. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもと会話)

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり(子どもと会話)を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもと「よく会話をする」との回答が 65.0%であり、「週 5 回以下」では、「よく会話をする」と回答した人は 58.4%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり(子どもと一緒にいる時間(平日)) (子ども票 問5(1) × 保護者票 問14(3))

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

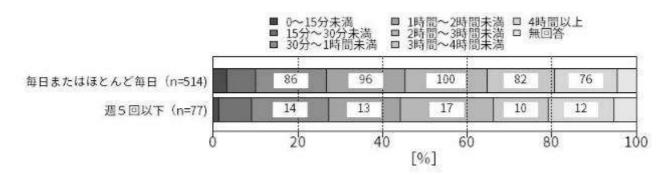
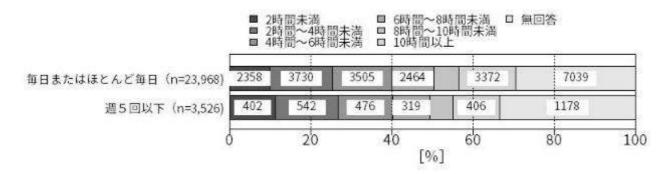


図 184. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもと一緒にいる時間(平日))

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり(子どもと一緒にいる時間(平日))を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人と「週 5 回以下」の人とで平日に子どもと一緒にいる時間に差はなかった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり(子どもと一緒にいる時間(休日)) (子ども票 問5(1) × 保護者票 問14(3))

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

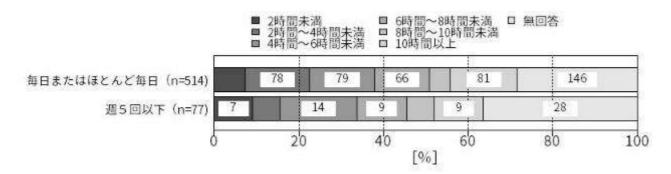
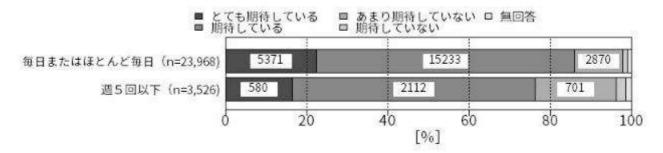


図 185. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもと一緒にいる時間(休日))

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり(子どもと一緒にいる時間(休日))を見ると、「毎日また はほとんど毎日」朝食をとっている人と、「週 5 回以下」の人とで休日に子どもと一緒にいる時間に差 はなかった。 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり(子どもへの将来の期待)

(子ども票 問 5(1) × 保護者票 問 14(4))

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

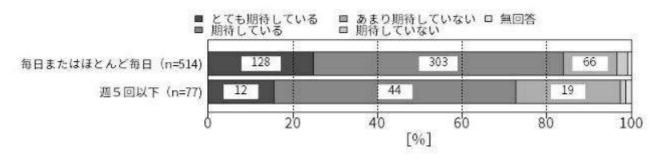


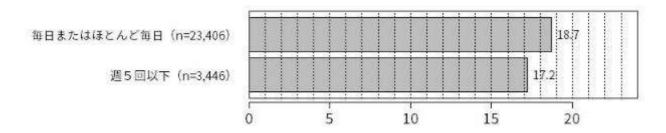
図 186. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり (子どもへの将来の期待)

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり(子どもへの将来の期待)を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、83.8%であったのに対して、「週5回以下」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて72.7%であった。

# 朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー (子ども票 問 5(1) × 子ども票 問 26(1)~(6))

※子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)については図148上の説明参照。

## <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

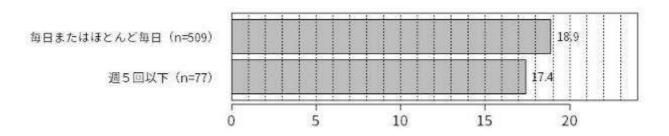
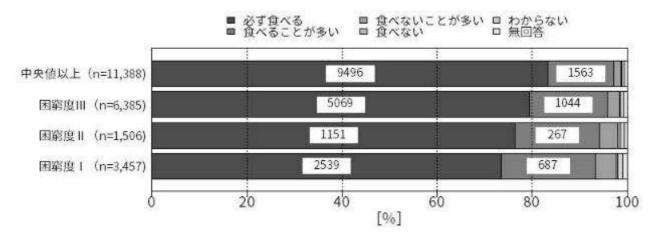


図 187. 朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

朝食の頻度別に子どもの自己効力感(セルフ・エフィカシー)の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、18.9点であるのに対して、「週 5 回以下」では、17.4点であった。

## 困窮度別に見た、昼食の頻度(子ども票 問7)

### <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

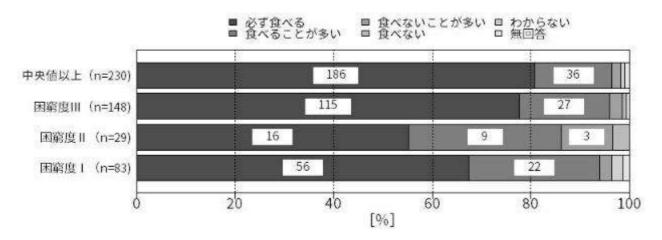
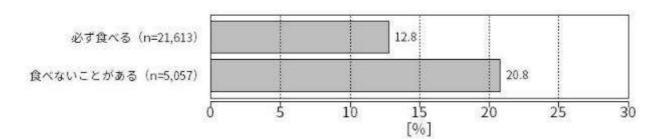


図 188. 困窮度別に見た、昼食の頻度

中央値以上群では、昼食を「必ず食べる」が 80.9%であったのに対し、困窮度  ${\rm II}$  群では 55.2%、困窮度  ${\rm II}$  群では 67.5%であった。

## 昼食の頻度別に見た、相談相手のいない割合 (子ども票 問7 × 子ども票 問22)

## <大阪市 24 区>



## <大阪市此花区>

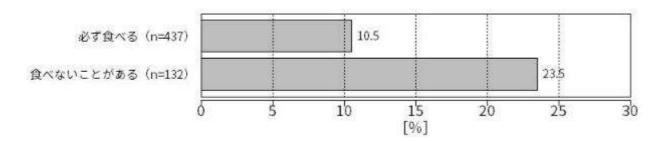


図 189. 昼食の頻度別に見た、相談相手のいない割合

昼食を食べない方が、「相談しない」と答えた割合が23.5%であった。